

参加者からみた福岡トライアスロン2017
：評価と課題

Research Report on Fukuoka Triathlon 2017

福田 拓哉・中尾 武平

参加者からみた福岡トライアスロン2017：評価と課題

Research Report on Fukuoka Triathlon 2017

福田 拓哉・中尾 武平

1. はじめに

近年、スポーツを触媒とする都市の活性化が活発化している。特にマラソンにおいては2007年に始まった東京マラソンを契機に、過去10年で大会数は5割増加し、その結果各地で激しい参加者獲得競争が巻き起こっている（NHK, 2017）。マラソン以外のスポーツイベントも増加する中、人口減少が続く日本では、あらゆるスポーツイベントがこの競争にさらされる可能性が高いといえよう。

こうした中、福岡市では2017年7月2日にスタンダードディスタンスのトライアスロン大会が初めて開催された。競技人口が増加する一方で、大会自体の数は横ばい状態が続いているトライアスロンであるが、2014年時点で年間280もの国内大会が開催されている現状を鑑みると（萬屋・瀬川, 2014）、マラソン同様各大会間の参加者獲得競争は一層激しいものになることが予想される。そのため、今後も福岡トライアスロンが継続的に発展するためには、参加者の実態を把握し、そこから得られた結果をもとに今後の大会運営を改善していく必要がある。

そこで、筆者らは本大会に参加した選手を対象としたウェブアンケート調査を実施した。本研究はその結果から得られた本大会の評価と課

題を明らかにすることを目的とする。本研究が福岡トライアスロン大会の継続的な発展の一助になれば幸いである。

2. 大会概要

人口150万人を誇る九州最大の都市で開催されたこの大会の特徴は、①地域振興を目的に掲げ、産学官が連携し運営にあたったこと、②東区の志賀島と西戸崎を舞台に都市部と自然が密接する福岡市の特徴を意識したコースが設定されたことの2点であった（毎日新聞、2017年2月16日）。

大会概要をみると、後援に9団体、協力・特別協力に19団体と、数多くの団体が連携し、産学官の運営体制が構築されていることが理解できる（図表1）。また、コースマップ・コースガイドをみると、博多駅・福岡空港との距離の近さを理解できる（図表2）。

大会参加費は一般が21,000円、福岡トライアスロン応援アスリートが100,000円に設定された。定員870名に855名の応募があり、当日完走したのは681名であった（図表1）。

なお、大会エントリー者の居住地上位3位は、福岡県（54%）、東京都（15%）、山口県（4%）であり、性別は男性92%、女性8%であった（福岡トライアスロン実行委員会、2017）。

図表 1：福岡トライアスロン 2017 大会概要

| | |
|----------|--|
| 主催 | 福岡トライアスロン大会実行委員会 |
| 主管 | 福岡県トライアスロン連合 |
| 後援 | 福岡市 / 九州経済連合会 / 福岡商工会議所 / 博多21の会 / 福岡青年会議所 / アビスパ福岡 / 福岡県専修学校各種学校協会 / 福岡県中小企業経営者協会連合会 / 日本トライアスロン連合 |
| 協力 | 福岡みらい病院 / 九州産業大学 / 福岡女子大学 / アスロニア / 志賀商会 / 西戸崎校区自治協議会 / 志賀島校区自治協議会 / 弘自治会 / 勝馬校区自治協議会 / 志賀島海ノ中道サイクルツーリズム協議会 / 台湾厚徳会 / 福岡市サイクリング連合 / 福岡ライフセービングクラブ / MLT / 福岡県水難救済会大岳救難所 / シーバード博多 / にしけい |
| 特別協力 | ザ・ルイガンズ スパ & リゾート |
| 開催日 | 2017年7月2日(日) 8:00~13:00 ※前日7月1日(土)は受付、競技説明会 |
| 開催地 | 福岡県福岡市東区一帯 |
| 競技内容 | スイム:1.5km バイク:40km ラン:10km(スタンダード) 距離:51.5km |
| 参加定員 | 870名 |
| エントリー数 | 855名 |
| 完走者数 | 681名 |
| 参加費(税込み) | 一般21,000円 福岡トライアスロン応援アスリート枠 100,000円 |

出所：福岡トライアスロン実行委員会より一部引用

図表 2：コースマップ・コースガイド



出所：google および大会公式サイトより

3. 調査方法および調査項目

本研究では、福岡トライアスロン実行委員会(以下「実行委員会」と略す)の許可のもと、筆者らがウェブアンケートを作成し、調査目的や回答の任意性、回答に際して個人が特定され

ないこと、アクセス先の URL 等を記した案内文を用意した。この案内文は実行委員会から参加者に向けて電子メールにて一斉送信された。回答は、本大会に実際に参加した選手に限定した。

調査期間は2017年7月5日から同年7月20日までとした。期間中に1度実行委員会から参加者に対して回答を促す電子メールが送信された。

調査項目は、先行研究を参考に、図表3のとおり設定した。

図表 3：調査項目

| 項目 | 内容 | 出所等 |
|----------|---|------------------|
| 個人属性 | 年齢、性別、居住地、職業、婚姻状況、家族構成(子の有無と人数)、自由裁量所得(月額)、同行者種別、本大会のレース結果(完走 or 途中棄権) | - |
| 競技活動 | トライアスロン歴、トライアスロン大会参加歴、練習頻度 | - |
| 大会関連消費行動 | 事前消費額、事前消費品目、グッズ消費額、宿泊の有無、宿泊費、宿泊施設、滞在日数、大会当日消費額 | - |
| 付随消費行動 | 観光活動の有無、観光場所、観光消費額 | - |
| 大会満足度 | 広報、開催場所、利便性、開催時期、大会参加費、支給品、スイム・コース、バイク・コース、ラン・コース、スタート地点、トランジット地点、トイレの設置、エイドステーション、ボランティアの対応、参加者間の交流、大会全体の満足度 | 北村, ほか(2000) |
| | 沿道の応援、観光情報・サービス、制限時間 | 先森, 秋吉, 山口(2014) |

4. 調査結果

4-1. サンプルの概要

本調査では、全356件の回答が得られた。そこから参加資格以下の年齢、回答漏れ多数等を基準にデータクリーニングを行った結果、有効回答は351件となった(有効回答率47.1%)。

4-2. 個人属性

回答者の平均年齢は44.2歳であった。性別は

男性90.6%、女性9.4%、居住地上位3位は福岡県(59.8%)、東京都(10.5%)、山口県(3.7%)であり、エントリー者の割合とほぼ同じ値を示した。

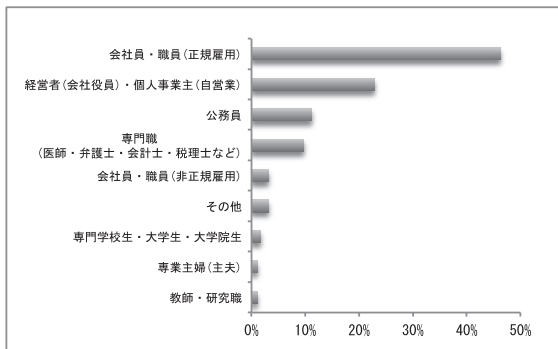
図表 4：性別と年代別割合 (n=347)

| | | 10・20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 合計 |
|----|----|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 性別 | 女性 | 度数 3 | 6 | 10 | 12 | 2 | 33 |
| | | % 9.1% | 18.2% | 30.3% | 36.4% | 6.1% | 100.0% |
| 性別 | 男性 | 度数 23 | 74 | 127 | 70 | 20 | 314 |
| | | % 7.3% | 23.6% | 40.4% | 22.3% | 6.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 26 | 80 | 137 | 82 | 22 | 347 |
| | % | 7.5% | 23.1% | 39.5% | 23.6% | 6.3% | 100.0% |

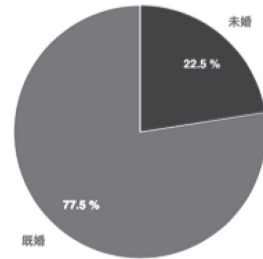
図表 5：居住地 (n=351)



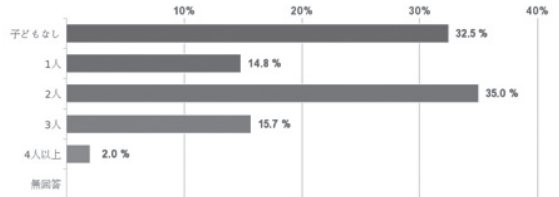
図表 6：職業 (n=351)



図表 7：婚姻状況 (n=351)



図表 8：子どもの数 (n=351)



図表 9：自由裁量所得・月額 (n=341)

| 所得範囲 | 度数 | パーセント |
|--------------|-----|-------|
| 5万円以下 | 200 | 58.7% |
| 5万円超 10万円以下 | 100 | 29.3% |
| 10万円超 15万円以下 | 16 | 4.7% |
| 15万円超 20万円以下 | 2 | 0.6% |
| 20万円超 25万円以下 | 10 | 2.9% |
| 25万円超 | 13 | 3.8% |
| 合計 | 341 | 100% |

平均：91,839円
 最小：0円
 最大：1,000,000円

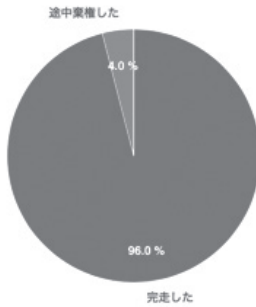
図表 10：同行者種別 (n=350)

各項目に「あてはまる」と回答したものの度数と割合

| 同行者種別 | 度数 | パーセント |
|----------------|-----|-------|
| 家族 | 118 | 33.7% |
| 友人 | 91 | 26.0% |
| 恋人 | 12 | 3.4% |
| 親族 | 12 | 3.4% |
| 職場の仲間 | 31 | 8.9% |
| スポーツクラブなどのグループ | 65 | 18.6% |
| その他 | 2 | 0.6% |
| 同行者なし | 108 | 30.9% |

※複数回答項目

図表 11：本大会のレース結果 (n=351)



職業は会社員・職員（正規雇用）が46.2%、経営者（会社役員）・個人事業主（自営業）が22.8%、公務員が11.1%、専門職（医師・弁護士・会計士・税理士など）が9.7%、会社員・職員（非正規雇用）とその他がそれぞれ3.1%、専門学校生・大学生・大学院生が1.7%、専業主婦（主夫）と教師・研究職がそれぞれ1.1%となった。

婚姻状況に関しては、既婚が77.5%、未婚が22.5%となり、子どもの人数に関しては、子どもなしが32.5%、1人が14.8%、2人が35.0%、3人が15.7%、4人以上が2.0%となった。

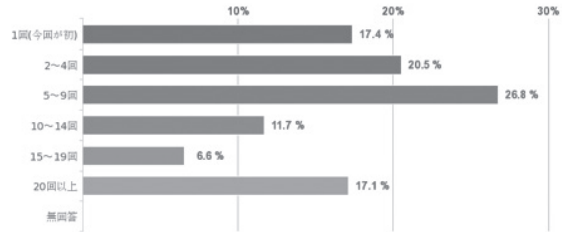
自由裁量所得（月額）は平均が91,839円となった。10万円以下が全体の88%を占めるものの、10万円超の割合も12%にのぼっており、経済的に余裕のある層が本大会に参加したことがうかがえる。

本大会への同行者種別は、家族33.7%、友人26.0%と、本人と関係性が強い相手との同行が目立つ一方で、スポーツクラブなどのグループが18.6%となっており、トライアスロン活動が他者との社会的関係性を構築する基盤になっている様子も示唆された。

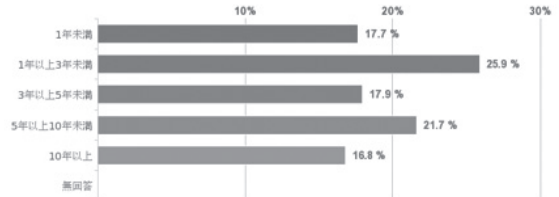
本大会のレース結果に関しては、回答者の96.0%が完走したと答えている。

4-3. 競技活動

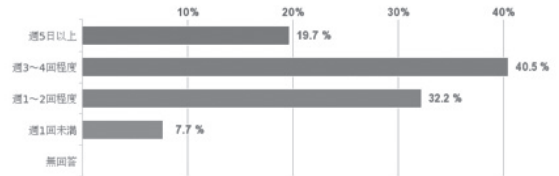
図表 12：大会参加回数



図表 13：トライアスロン歴



図表 14：練習頻度



回答者の大会参加回数は、9回以下の低群が64.7%、10回以上の高群が35.3%となった。低群の中では、今回が大会初参加となった回答者が17.4%、高群の中では本大会で20回以上の参加となった回答者が17.1%とほぼ同数であった。こうした傾向はトライアスロン歴にも現れている。1年未満の回答者が17.1%、10年以上の回答者が16.8%となった。このことから、ビギナーからエキスパートまで幅広い層が本大会に参加したことが理解できる。

一方で、練習頻度をみると週3日以上練習を行う回答者が全体の60.2%にのぼった。そこで、大会参加数（高群・低群）を基準に練習頻度とのクロス集計を行った（図表15）。その結果、大会参加回数と練習頻度との間には有意な差が認められなかった。つまり、本大会の参加者の

練習頻度は過去の大会参加回数と関連なく、その約60%が週3回以上の練習を行っていることが明らかとなった。

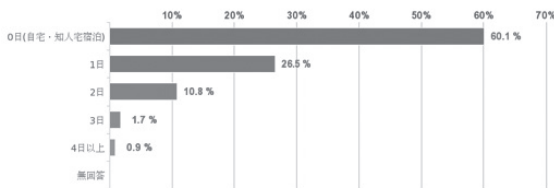
図表 15

| | | 大会参加回数 | | 合計 | |
|-------|---------|--------|--------|--------|-------|
| | | 低群 | 高群 | | |
| 練習頻度 | 週5日以上 | 度数 | 41 | 28 | 69 |
| | | % | 18.1% | 22.6% | 19.7% |
| | 週3~4回程度 | 度数 | 93 | 49 | 142 |
| | | % | 41.0% | 39.5% | 40.5% |
| | 週1~2回程度 | 度数 | 74 | 39 | 113 |
| | | % | 32.6% | 31.5% | 32.2% |
| 週1回未満 | 度数 | 19 | 8 | 27 | |
| | % | 8.4% | 6.5% | 7.7% | |
| 合計 | 度数 | 227 | 124 | 351 | |
| | % | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

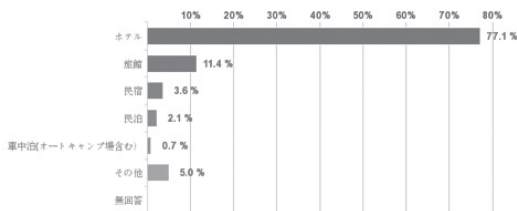
$\chi^2 = .731$

4-4. 大会関連消費行動

図表 16：有料宿泊数 (n=351)



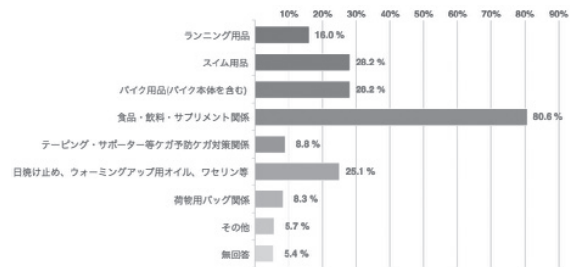
図表 17：利用した有料宿泊施設 (n=140)



図表 18：各費用の平均

| | 平均額 |
|---------------------|----------|
| 宿泊費用 (n=139) | 24,580 円 |
| 事前購入物合計金額 (n=348) | 71,135 円 |
| 前夜祭消費額 (n=316) | 549 円 |
| 大会公式ブース利用額 (n=347) | 1,047 円 |
| 前夜祭・大会当日消費額 (n=348) | 8,853 円 |

図表 19：事前購入物



本大会において、有料宿泊施設を利用した回答者は39.9%となった。これは、回答者の59.8%が福岡県在住者であることの表れといえよう。有料宿泊者が利用した施設としてはホテルが77.1%と大多数を占めた。

各費用の平均金額をみると、事前購入物合計金額が71,135円と高額になっている。これは事前購入物（図表19）のバイク用品（バイク本体を含む）による影響が考えられる。

こうした大会関連消費行動は、大会自体の経済波及効果に大きな影響を与える。今後、本大会がより大きな経済波及効果を生み出そうとするならば、まずは有料宿泊を必要とする県外参加者の獲得が必要になるだろう。その場合、県外に向けた本大会の広報・PRが一層重要になるといえる。

4-5. 付随消費行動

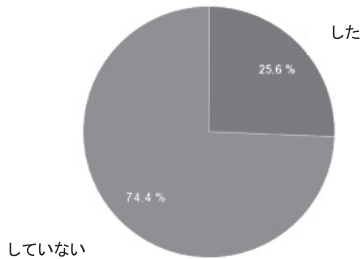
本大会の付随消費行動としては、大会以外の観光活動を中心に調査した。本大会への参加をきっかけに福岡県およびその周辺地域を観光した回答者は25.6%となった。この結果は回答者の居住地（59.8%が福岡県在住）が大きく影響しているものと思われる。そのため、居住地と観光活動のクロス集計を行った（図表21）。

その結果、県外在住者の46.4%、県内在住者も11.4%が観光活動を行ったことが明らかとなった。主な観光先としては、福岡市内（博多・天神・中洲エリア）と大会会場周辺の海の中道・

志賀島エリアが最も多く、中には熊本、朝倉市まで足を運んだ回答者も認められた。自由記述から、後者は震災復興支援を目的としたものであることが明らかとなった。

また、観光地での消費額は平均で18,814円にのぼり、当該地域の経済にポジティブな影響を与えたことも示唆された。

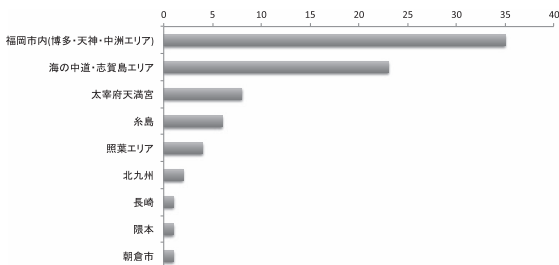
図表 20 : 大会以外の観光活動 (n=350)



図表 21 : 居住地と観光活動とのクロス (n=350)

| | | 回答者の居住地 | | 合計 |
|---------|----|---------|--------|--------|
| | | 福岡県在住者 | 県外在住者 | |
| 観光した | 度数 | 24 | 65 | 89 |
| | % | 11.4% | 46.4% | 25.4% |
| 観光しなかった | 度数 | 186 | 75 | 261 |
| | % | 88.6% | 53.6% | 74.6% |
| 合計 | 度数 | 210 | 140 | 350 |
| | % | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

図表 22 : 主な観光先 (n=85)



4-6. 大会満足度とリピート・紹介意向

大会の満足度については、各項目とも「全くあてはまらない」から「非常にあてはまる」までの5件法を用いて測定した。図表23は平均値

が高い順に各項目の結果を並び替えたものである。

平均値が4以上となったものは7項目ある。全体満足度は平均値が4.20となり、大会全体を通じて参加者が満足したことが理解できる。これ以外では、大会を支援者に関する項目（ボランティアの対応、沿道の応援）、地理的要因に関する項目（開催場所）、大会コースに関する項目（バイクコース、スイムコース、ランコース）において高い満足度を示す結果となった。

大会支援者に関する項目について、自由記述欄には、「沿道の方が大きい声で応援してくれたので頑張れました！ボランティアの方も大変ありがたかったです！」(32歳、男性)、「志賀島の応援の方々が温かかった。ボランティアの方が親切だった。スイムのレスキューの人数が多く、安心感があった。」(39歳、女性)、「医療体制の充実、ボランティアの充実度は群を抜いて素晴らしかったと思います。また、大会前日からの雰囲気・演出が大きな大会に参加している感があり、素晴らしかったと思います。」(39歳、男性)といった声が寄せられた。

地理的要因、大会コースに関する項目に関しては、「海の水がきれいでした」(47歳、男性)、「志賀島の景色と走り易さ、最高でした」(59歳、男性)、「景色が風光明媚で良かった。都心から近いという地の利も良かった。」(48歳、男性)といった声が寄せられた。

一方で、下位5項目をみると、大会前日運営関連項目（事前説明会、前夜祭）、大会当日運営関連項目（アクセス・移動、トランジット地点、トイレの設置）に改善点があることが示唆された。大会前日運営関連項目については、自由記述欄に「付近の駐車場が17:30で閉まるため、前夜祭に参加できなかった。(33歳、男性)、「駐車場Bの入口がわからなくて何回もうろろした。入口がここだと書いておいてほしい。

県外の人に不親切すぎ。前夜祭ドリンク別なのはちょっと高すぎ。」(47歳、女性)、「事前説明会が時間通りではなかった。事前説明会に車

で来た人の駐車場確保をしっかりと欲しかった。」(47歳、男性)といった声が寄せられた。

大会当日運営項目に関しては、「スイムからトランジションエリアまでが遠い。応援の方にとって、駅から会場までが遠い。応援の方にとって、7時から交通規制では、応援に行きたくても行けない。観戦者視点からは改善の余地があるかと思います。」(34歳、男性)、「バイクの距離がサイコンや時計でみたら3km以上長かった。スイム後のトランジションまでが長い。」(51歳、男性)、「当日暑かったのでバイクコースに給水エイドがあれば良かったと思った。ランコースにもシャワーなど水が浴びれる箇所が欲しかった。」(34歳、女性)といった声が寄せられた。これらの課題は、回答者から寄せられた自由記述とともに、今後さらに詳細な検討を重ねていきたい。

また、各項目とも全体満足度との相関が認められたが、特に開催場所、バイクコース、スタート地点といった要因が高い数値を示した。

参加者のリピート意向については84.3%が、本大会の紹介意向については79.2%がポジティブな回答であった。

図表 23 : 各項目の満足度と全体満足度との相関

| | 平均値 | 標準偏差 | 相関係数 |
|-----------|------|------|--------|
| ボランティアの対応 | 4.64 | .59 | .333** |
| 開催場所 | 4.45 | .70 | .543** |
| 沿道の応援 | 4.35 | .79 | .412** |
| 全体満足度 | 4.20 | .80 | - |
| バイクコース | 4.13 | .92 | .451** |
| スイムコース | 4.07 | .88 | .394** |
| ランコース | 4.02 | .82 | .351** |
| 制限時間 | 3.97 | .81 | .288** |
| スタート地点 | 3.96 | .84 | .430** |
| 開催時期 | 3.94 | .89 | .323** |
| エイドステーション | 3.73 | 1.03 | .268** |
| 広報 | 3.72 | .94 | .329** |
| 利便性 | 3.66 | 1.07 | .351** |
| 参加者間の交流 | 3.59 | .81 | .331** |
| 観光情報サービス | 3.53 | .83 | .367** |
| 参加費 | 3.21 | .94 | .334** |
| 支給品 | 3.18 | 1.01 | .319** |
| アクセス・移動 | 3.16 | 1.12 | .328** |
| 前夜祭 | 3.14 | .97 | .347** |
| トイレの設置 | 3.12 | .93 | .306** |
| トランジット地点 | 3.08 | 1.20 | .341** |
| 事前説明会 | 3.03 | 1.10 | .340** |

** .1%水準で有意(両側)

図表 24 : 次回も本大会に参加したいですか

| | 度数 | パーセント |
|-----------|-----|-------|
| 非常にあてはまる | 183 | 52.1 |
| あてはまる | 113 | 32.2 |
| どちらでもない | 42 | 12 |
| あてはまらない | 6 | 1.7 |
| 全くあてはまらない | 7 | 2 |
| 合計 | 351 | 100 |

図表 25 : トライアスロンをしている大切な家族や友人にも次回大会への参加を呼びかけたいですか

| | 度数 | パーセント |
|-----------|-----|-------|
| 非常にあてはまる | 139 | 39.6 |
| あてはまる | 138 | 39.3 |
| どちらでもない | 58 | 16.5 |
| あてはまらない | 9 | 2.6 |
| 全くあてはまらない | 7 | 2 |
| 合計 | 351 | 100 |

5. まとめ

以上をもとに、福岡トライアスロンの継続的な発展に向けたポイントを今一度整理したい。

まず、大会満足度についてであるが、全体満足度、リピート意向、紹介意向において高い数値を示した。このことから、本大会は全体を通して、一定の質を参加者に提供できたといえよう。しかしながら、当日のトランジット地点や給水、距離の計測・表示、前日の駐車場や前夜祭料金についての課題を指摘する声も見られた。この点はより詳細な自由記述の分析とともに検討を重ねたい。

次に、大会関連消費行動および付随消費行動

については、県外参加者の獲得が鍵になることがわかった。これは、本大会に伴う経済波及効果と密接に関連するため、今後は県外に向けた広報・PRを促進することが重要になる。その際、福岡という都市の魅力や、会場となる志賀島周辺の景色、高い評価を受けた運営面を訴求することがポイントになるだろう。

【謝辞】

本調査の実施に際し、尚美学園大学総合政策学部准教授・江頭満正氏に多大なるご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。また、本調査の結果をもとに、江頭氏に本大会の経済波及効果の算出を依頼したところ、4億4,400万円という結果となりました。この調査結果は、日本経済新聞2018年1月20日付地域経済面に掲載されました。

【文献】

- 1) 福岡トライアスロン公式サイト：<http://fukuoka-triathlon.jp>
- 2) 福岡トライアスロン2017大会報告書, 福岡トライアスロン実行委員会.
- 3) 北村尚浩, 川西正志, 波多野義郎, 柳敏晴, 萩裕美子, 前田博子, 野川春夫 "生涯スポーツイベント参加者の大会満足度：菜の花マラソン参加者のスポーツライフスタイルによる比較." 学術研究紀要 / 鹿屋体育大学 23 (2000) : 25-31.
- 4) 先森仁, 秋吉遼子, 山口泰雄. "大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意図に与える影響に関する研究：県内・県外参加者に着目して." 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 8.1 (2014) : 107-113.
- 5) マラソン大会ウォーズ～激化する市民ランナー獲得競争～, NHK クローズアップ現代

公式サイト：<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4060/>

- 6) 萬屋五兵衛・瀬川明秀." トライアスロン、人気上昇しても日本で大会が増えないワケ." 日経ビジネスオンライン, 2014年6月10日：
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20140609/266554/>
- 7) "7月2日に開催 志賀島と西戸崎舞台に福岡の魅力満喫コース 九州一の大規模へ男女870人募集" 毎日新聞, 2017年2月16日.